

IPO銘柄 ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ (6090・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
6090	100 株	公募: 85.00 万株 売出: 57.15 万株 (OA15.00 万株)	1,300 円~ 1,400 円 (250.0 倍)	いちよし証券

■ 日程



慶應大学発のバイオベンチャー、解析試験の受託などを事業展開

■ 事業内容

慶應義塾大学先端生命研究所を設立母体とするベンチャー。メタボローム解析試験受託を主力に、キット販売事業、トレーニング人材派遣事業、バイオマーカー開発も手掛けている。メタボローム解析事業では製薬や食品などの民間企業、大学や公的研究機関から解析試験を受託。解析サービスで得られた代謝物質データは基礎生物学研究や薬剤効果、毒性の評価、また食品企業では発酵プロセスの律速段階解析、機能性食品の評価などに用いられる。測定方法に応じて「アドバンス・スキャン」「ベーシック・スキャン」「C-SCOPE」などを提供。12年10月には北米に販売子会社も設立した。14年3月期第2四半期累計(13年4~9月)の売上高構成比はメタボローム解析事業が80.3%、バイオマーカー事業が1.8%、メタボロミクスキット事業が6.0%、人材派遣事業が11.9%。

■ 特徴

慶應義塾大学先端生命研究所が開発したメタボローム解析技術「CE-MS法」が技術基盤。「CE-MS法」はキャピラリー電気泳動装置と質量分析計で生体試料に電圧を加えて測定するもので、従来の測定法よりも高い分離能を実現し、正確なメタボローム測定が可能となる。

アナリストコメント

■ 定量分析

14年3月期の連結経常損益は2,600万円の黒字(前期実績は9,300万円の赤字)と、非連結決算だった11年3月期以来の黒字浮上を見込んでいる。黒字浮上見通しはポジティブな材料だが、バイオベンチャーであり、単純に業績面からだけでは評価しづらい。

■ 定性分析

慶應義塾大学発の企業で需要の拡大が見込まれる分野をメインフィールドとする。味の素<2802>など大企業を主要取引先としており、創薬系バイオベンチャーと比べて堅実なイメージがある。IPOとしては初値にプレミアムの付きやすい今年最後の案件としても注目される。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約22億円。資金需要の大きな業態であることを考慮すれば許容範囲と言える。株主にベンチャーキャピタルは多いが、ロックアップが掛けられていることもあり、大きな不安はないとみる。

(小泉健太)

■ 類似企業

ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ (6090・マザーズ)	予想PER250.0倍 (仮条件上限)
メディックグループ (2369・マザーズ)	予想PER —
総医研ホールディングス (2385・マザーズ)	予想PER177.1倍

■ 引受証券

いちよし証券、極東証券、野村證券、東洋証券、SMBC日興証券、エース証券、岩井コスモ証券、マネックス証券、丸三証券、岡三証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
12年3月期(実績)	521	▲ 8.2	-47	赤転	-46	赤転	-12.1	—
13年3月期(実績)	496	—	-93	—	-95	—	-24.5	—
14年3月期(会社予想)	638	28.6	26	黒転	23	黒転	5.6	—

※ 13年3月期から連結決算。13年10月に株式分割(1株→300株)を実施。12年3月期および13年3月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
12年3月期	12,950	511	264	531	68.0	51.7	—
13年3月期	12,950	425	173	531	44.7	40.8	—

※ 12年3月期および13年3月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	サミット・バイオテクノロジー・ ジャパン投資事業組合	792,900	17.50
2	富田 勝	570,000	12.58
2	曾我 朋義	570,000	12.58
4	大阪ライフサイエンス投資事業有 限責任組合	557,100	12.29
5	慶應義塾	199,500	4.40
6	東北インキュベーション投資事業有 限責任組合	195,000	4.30
7	大岸 治行	165,000	3.64
8	西岡 孝明	150,000	3.31
9	東北グロース投資事業有限責任組合	135,000	2.98
10	TICC大学連携投資事業有限責任組合	90,000	1.99
10	菅野 隆二	90,000	1.99

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	菅野 隆二
取締役 管理本部長	村上 秀明
取締役 バイオマーカー・分子診断事 業部長 兼 研究開発本部長	大橋 由明
取締役 営業・マーケティング本部長 兼 人材派遣事業部長 兼 メタ ボローム解析事業部長	永嶋 淳
監査役(常勤)	網野 秀雄
監査役	鈴木 布佐人
監査役	関根 豊

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。